

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	看護学概論	単 位 数 (時間数)	2 単位 (45 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	本松 美和子 (別府医療センター附属大分中央看護学校 副学校長・看護師 37 年)		
<p><科目目標></p> <p>看護の主要概念である人間・環境・健康・看護についての考え方を基盤として、看護の機能と役割及び専門職としての責務について理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1～3	1. 看護の概念 1) 「看護」の意味 2) 看護技術と看護行為 3) 看護の起源 4) 看護の変遷 5) 職業としての看護の成り立ち	講義	
4～6	6) ナイチンゲールの看護の考え方 7) 看護の定義	講義	
7～9	2. 看護の対象としての人間 1) 生命体と生活体 2) 人間の基本的欲求 3) 成長と発達 4) ストレスと適応 5) ライフサイクルと発達課題、発達危機 6) 看護の対象としての個人、家族、集団、地域	講義・演習	
10～12	3. 人間を取り巻く環境と健康 1) 環境の概念 2) 健康の概念 3) 健康に影響を及ぼす要因 4) 国民の健康状態を示す指標と健康状態の動向 5) 生活と健康	講義	
13・14	4. 看護活動の場と看護の機能・役割 1) 看護の目的・目標と看護の機能 2) 看護の質保証に欠かせない要件	講義	
15	3) 看護活動の場と看護職の役割 4) 保健医療福祉活動における看護職の役割	講義	
16	5) 看護の継続性と地域への活動の拡大 6) 看護の機能・役割の拡大	講義	
17	5. 看護の理論家とその業績 1) 看護理論とは 2) 看護理論の分類 3) 看護のメタパラダイム	講義	
18～20	4) 看護理論家の生涯とその業績 ヘンダーソン、オレム、ペプロウ、ロイ、オーランド、ベナー、トラベルビー他	講義・演習	

回	授業内容	授業方法
21・22	6. 専門職としての看護職の責務 1) 専門職とは 2) 看護職の資格と法律 3) 看護職の養成制度 4) 認定看護師、専門看護師、認定看護管理者 5) 特定行為に係る看護師の研修制度 6) 看護専門職団体の役割 7) 看護者の職業倫理	講義
23	8) 看護の専門職化 9) 看護の専門家とは	講義

授業の進め方

看護の主要概念と看護理論については、まず個人で調べ、それを持ち寄って小グループで議論をし、グループでまとめたものを発表する。その過程で、自分で考えること、他の人たちの意見や考えを聞くこと、自分の考えと比較することを通して、様々な考え方があることに気づき、受け入れ、自分の中に取り入れて、自分の考えを広げたり深めたりすることを体験できるようにする。全体を通して「看護とは何か」を考える機会をつくり、授業終了時には自分の言葉で、自分なりの看護についての考えを述べられるようにする。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論, 医学書院
2. フローレンス・ナイチンゲール: 看護覚え書, 現代社
3. ヴァージニア・ヘンダーソン: 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会
4. 黒田裕子: やさしく学ぶ看護理論 第3版, 日総研出版
5. 国民衛生の動向 2021/2022 年度版, 厚生統計協会

評価方法

筆記試験、レポート、演習参加状況

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期																		
科 目 名 (単元名)	安全を守るための技術 (安全確保・感染防止の技術)	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)																		
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター附属大分中央看護学校 専任教員・看護師 24 年)																				
<p><科目目標> 全ての看護に共通する技術として、安全についての考え方・安全を守る技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 看護における安全の意義が理解できる。 2. 安全を阻害する因子と事故防止のための基本的な行動が理解できる。 3. 感染防止のための基本的な知識を理解し、PPE・無菌操作が実施できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 (1) 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント) 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 7) 針刺し事故防止</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 感染防止の技術 1) 感染の成立と予防 2) 医療関連感染 (HAI) 3) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 4) ゴーニング 5) 感染経路別予防策 (接触、飛沫、空気) 6) 感染性廃棄物の取り扱い 7) 洗浄・消毒・滅菌</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 感染予防策の実際 1) 手指衛生 (1) 衛生的な手洗い (2) 速乾性アルコール消毒薬による手指消毒 2) 個人防護用具 (PPE) (手袋、マスク、キャップ、ガウン、ゴーグル、フェイスシールドなど)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 2) 滅菌物の取り扱いの基本</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5～7</td> <td>5. 無菌操作の実際 1) 清潔区域の作成 2) 滅菌包装の開き方 3) 滅菌物の取り出し方 4) 鉗子・鑷子の取り扱い 5) 滅菌手袋の着脱 6) ガウンテクニック</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	授業方法	1	1. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 (1) 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント) 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 7) 針刺し事故防止	講義	2	2. 感染防止の技術 1) 感染の成立と予防 2) 医療関連感染 (HAI) 3) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 4) ゴーニング 5) 感染経路別予防策 (接触、飛沫、空気) 6) 感染性廃棄物の取り扱い 7) 洗浄・消毒・滅菌	講義	3	3. 感染予防策の実際 1) 手指衛生 (1) 衛生的な手洗い (2) 速乾性アルコール消毒薬による手指消毒 2) 個人防護用具 (PPE) (手袋、マスク、キャップ、ガウン、ゴーグル、フェイスシールドなど)	講義 演習	4	4. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 2) 滅菌物の取り扱いの基本	講義	5～7	5. 無菌操作の実際 1) 清潔区域の作成 2) 滅菌包装の開き方 3) 滅菌物の取り出し方 4) 鉗子・鑷子の取り扱い 5) 滅菌手袋の着脱 6) ガウンテクニック	講義 演習
回	内容	授業方法																			
1	1. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 (1) 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント) 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 7) 針刺し事故防止	講義																			
2	2. 感染防止の技術 1) 感染の成立と予防 2) 医療関連感染 (HAI) 3) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 4) ゴーニング 5) 感染経路別予防策 (接触、飛沫、空気) 6) 感染性廃棄物の取り扱い 7) 洗浄・消毒・滅菌	講義																			
3	3. 感染予防策の実際 1) 手指衛生 (1) 衛生的な手洗い (2) 速乾性アルコール消毒薬による手指消毒 2) 個人防護用具 (PPE) (手袋、マスク、キャップ、ガウン、ゴーグル、フェイスシールドなど)	講義 演習																			
4	4. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 2) 滅菌物の取り扱いの基本	講義																			
5～7	5. 無菌操作の実際 1) 清潔区域の作成 2) 滅菌包装の開き方 3) 滅菌物の取り出し方 4) 鉗子・鑷子の取り扱い 5) 滅菌手袋の着脱 6) ガウンテクニック	講義 演習																			
<p>授業の進め方 演習においては少人数でのグループでお互いに確認できるようにする。滅菌物の取り扱いでは鑷子等の滅菌物を作成し実際に取り出し方を体験できるようにする。</p>																					
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 2. 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術(メディックメディア)</p>																					
<p>評価方法 1. 筆記試験 2. 技術確認</p>																					

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期																																							
科目名 (単元名)	対象把握のための技術 (フィジカルアセスメント)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 22 時間																																							
講師 (所属・職位等・実務経験)	大道 真理 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 16 年)																																									
<p><科目目標></p> <p>全ての看護に共通する対象把握のための技術を身につける。看護における観察の重要性を理解し、対象の状態を的確に判断するために必要なフィジカルアセスメント技術を身につける。さらに人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を身につける。</p>																																										
<p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 観察 1) 観察とは 2) 観察の目的・方法 3) 観察の視点 4) 観察の手段</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. フィジカルアセスメントに共通する技術 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 (1) フィジカルアセスメントの方法 i. 医療面接 ii. 4 つの基本技術 iii. 身体診察 iv. 全身の診察 v. 系統別のフィジカルアセスメント 2) 身体診察の実際</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 1】 第 2 回目開始までに、呼吸器の解剖図を記載して提出</td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>3. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系の視診・触診・打診・聴診</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 2】 第 4 回目開始までに、循環器の解剖図を記載して提出</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>4. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系の視診・触診・打診・聴診</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 3】 第 6 回目開始までに、消化器の解剖図を記載して提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5. 消化器系のアセスメント 1) 口腔のフィジカルアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>8・9</td> <td>6. バイタルサイン測定の実際</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 4】 第 9 回目開始までに、各神経の支配領域・働きを学習して提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>7. 感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント 1) 感覚系・中枢神経系の視診・触診・打診</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>8. 筋・骨格のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系の視診・触診</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 観察 1) 観察とは 2) 観察の目的・方法 3) 観察の視点 4) 観察の手段	講義 演習	2	2. フィジカルアセスメントに共通する技術 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 (1) フィジカルアセスメントの方法 i. 医療面接 ii. 4 つの基本技術 iii. 身体診察 iv. 全身の診察 v. 系統別のフィジカルアセスメント 2) 身体診察の実際	講義 演習	【課題 1】 第 2 回目開始までに、呼吸器の解剖図を記載して提出			3・4	3. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習	【課題 2】 第 4 回目開始までに、循環器の解剖図を記載して提出			5・6	4. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習	【課題 3】 第 6 回目開始までに、消化器の解剖図を記載して提出			7	5. 消化器系のアセスメント 1) 口腔のフィジカルアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント	講義 演習	8・9	6. バイタルサイン測定の実際	演習	【課題 4】 第 9 回目開始までに、各神経の支配領域・働きを学習して提出			10	7. 感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント 1) 感覚系・中枢神経系の視診・触診・打診	講義 演習	11	8. 筋・骨格のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系の視診・触診	講義 演習
回	授業内容	授業方法																																								
1	1. 観察 1) 観察とは 2) 観察の目的・方法 3) 観察の視点 4) 観察の手段	講義 演習																																								
2	2. フィジカルアセスメントに共通する技術 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 (1) フィジカルアセスメントの方法 i. 医療面接 ii. 4 つの基本技術 iii. 身体診察 iv. 全身の診察 v. 系統別のフィジカルアセスメント 2) 身体診察の実際	講義 演習																																								
【課題 1】 第 2 回目開始までに、呼吸器の解剖図を記載して提出																																										
3・4	3. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習																																								
【課題 2】 第 4 回目開始までに、循環器の解剖図を記載して提出																																										
5・6	4. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習																																								
【課題 3】 第 6 回目開始までに、消化器の解剖図を記載して提出																																										
7	5. 消化器系のアセスメント 1) 口腔のフィジカルアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント	講義 演習																																								
8・9	6. バイタルサイン測定の実際	演習																																								
【課題 4】 第 9 回目開始までに、各神経の支配領域・働きを学習して提出																																										
10	7. 感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント 1) 感覚系・中枢神経系の視診・触診・打診	講義 演習																																								
11	8. 筋・骨格のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系の視診・触診	講義 演習																																								
<p>授業の進め方</p> <p>ここでは、解剖生理学で学んだ体の仕組みと働きをアセスメントにつなげ、アセスメントの結果をケアや観察につなげる力を養う。講義では、視聴覚教材 (DVD) も活用し教授する。技術の習得にあたっては、聴診器や打腱器など各種測定器具を使って演習を行う。限られた時間の中で、効果的に学習が進められるよう、指定された期日に課題の提出を求める。</p>																																										
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院) 2. 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント (インターメディカ) 3. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) 4. 看護 形態機能学 第 4 版 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会) 																																										
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 技術確認 課題レポート</p>																																										

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期																		
科目名 (単元名)	対象把握のための技術 (コミュニケーション)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 8 時間																		
講師 (所属・職位等・実務経験)	中島 由美子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 27 年)																				
<p><科目目標></p> <p>全ての看護に共通する対象把握のための技術を身につける。看護における観察の重要性を理解し、対象の状態を的確に判断するために必要なフィジカルアセスメント技術を身につける。さらに人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を身につける。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3"> <p>【事前課題】</p> <p>1. 人間関係論 I で学んだコミュニケーション過程のモデル、基本的要素、人間関係づくりのための効果的なコミュニケーションについて、講義開始前に個人のノートにまとめておく。</p> <p>2. 2 回目の講義・演習が終了後、日常会話の中の一場面について、プロセスレコードを記入する。</p> <p>3. 4 回目の講義・演習前までに、視聴覚教材 (事例) のコミュニケーションの場面を通してプロセスレコードを記入する。</p> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 看護理論(ウィーディンバック)とコミュニケーション</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5. コミュニケーション障がいへの対応</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6. 医療における信頼関係とコミュニケーション 1) 信頼関係の基本であるコミュニケーション 2) 看護師-患者関係</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>7. 看護場面におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションとリフレクション 2) プロセスレコードによる振り返り</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	<p>【事前課題】</p> <p>1. 人間関係論 I で学んだコミュニケーション過程のモデル、基本的要素、人間関係づくりのための効果的なコミュニケーションについて、講義開始前に個人のノートにまとめておく。</p> <p>2. 2 回目の講義・演習が終了後、日常会話の中の一場面について、プロセスレコードを記入する。</p> <p>3. 4 回目の講義・演習前までに、視聴覚教材 (事例) のコミュニケーションの場面を通してプロセスレコードを記入する。</p>			1	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 看護理論(ウィーディンバック)とコミュニケーション	講義 演習	2	4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5. コミュニケーション障がいへの対応	講義 演習	3	6. 医療における信頼関係とコミュニケーション 1) 信頼関係の基本であるコミュニケーション 2) 看護師-患者関係	講義 演習	4	7. 看護場面におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションとリフレクション 2) プロセスレコードによる振り返り	講義 演習
回	授業内容	授業方法																			
<p>【事前課題】</p> <p>1. 人間関係論 I で学んだコミュニケーション過程のモデル、基本的要素、人間関係づくりのための効果的なコミュニケーションについて、講義開始前に個人のノートにまとめておく。</p> <p>2. 2 回目の講義・演習が終了後、日常会話の中の一場面について、プロセスレコードを記入する。</p> <p>3. 4 回目の講義・演習前までに、視聴覚教材 (事例) のコミュニケーションの場面を通してプロセスレコードを記入する。</p>																					
1	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 看護理論(ウィーディンバック)とコミュニケーション	講義 演習																			
2	4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5. コミュニケーション障がいへの対応	講義 演習																			
3	6. 医療における信頼関係とコミュニケーション 1) 信頼関係の基本であるコミュニケーション 2) 看護師-患者関係	講義 演習																			
4	7. 看護場面におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションとリフレクション 2) プロセスレコードによる振り返り	講義 演習																			
<p>授業の進め方</p> <p>視聴覚教材等を用いて事前課題を提示し講義・演習を進める。コミュニケーションは、人間関係形成のうえで非常に重要な役割を担う。単に言語による会話だけでなく、コミュニケーションにおいては非言語の持つ意味も大きい。今単元では、看護の一場面から言語的・非言語的コミュニケーションを演習によって気づきを体験する。演習後は看護場面をプロセスレコードの様式に記載し、他者の言動、自分の気持ち、自分の言動を振り返る。</p> <p>人間関係論 I で学んだ人間関係づくりのための効果的なコミュニケーション技術、話す・聴く技術、グループワークの実際を活用しながら学びを深めていく。</p>																					
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)</p>																					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、事前課題のレポート等</p>																					

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科目名 (単元名)	看護を展開するための技術	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 15 年)		
<p><科目目標></p> <p>対象に必要な看護を展開するための技術を学ぶ。問題解決技法である看護過程展開技術、指導・教育的な関わりとしての学習支援、看護における情報の記録と共有について理解できる。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
	<p>【事前課題 1】 解剖生理学で学習した「栄養の消化と吸収」、「呼吸と血液の働き」、「血液循環とその調節」、「体液の調整と尿の生成」、「内臓機能の調節」、「からだの支持と運動」、「情報の受容と処理」、「外部環境からの防御」のメカニズムに関してノートにまとめ、事前提出する。</p> <p>【事前課題 2】 講義開始前にロイ看護理論のテキストを読み、以下の内容をまとめ、提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロイとはどのような人物なのか(看護理論家としての業績も含める)。 2. ロイは看護で中心的な概念(人間・環境・健康・看護)をどのように定義づけているか。 3. 生理的様式(9 項目)・自己概念様式・役割機能様式・相互依存様式に関して、患者の状態をアセスメントするために観察しておかなければならない視点をあげる。ただし、観察すべき項目のみを挙げるだけでなく、何故その観察項目が必要なのかも併せて記載する。 <p>【事前課題 3】 事例で使用する肺炎について解剖生理、病態生理、検査、治療、看護について事前学習する。</p>		
1・2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の定義 2) 看護過程の歴史的変遷 3) 看護過程に影響すること 4) 看護過程と問題解決法との関係 5) 看護過程におけるクリティカルシンキングとは 2. 看護過程の構成要素と関係 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の構成要素 (1) アセスメント (2) 看護診断 (3) 計画 (4) 実施 (5) 評価 2) 看護過程の各段階の相互関係 3) 看護過程と看護診断 3. ロイ適応看護モデルを用いた看護過程の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) ロイ適応モデルの概要 2) ロイ適応モデルの重要概念(人間、環境、健康、看護) 3) ロイ適応モデルによる看護過程 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第 1 段階(行動)アセスメント(生理的様式、自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式) (2) 第 2 段階(刺激)アセスメント (3) 看護診断 (4) 目標設定 (5) 介入(介入計画・計画の実施) (6) 評価 	講義	
3・4	<ol style="list-style-type: none"> 4. 事例紹介 5. ペーパーシミュレーション 6. 第 1 段階(行動)アセスメント演習 	講義 演習(グループワーク)	
【課題 4】 行動のアセスメント 提出			
5	7. 第 1 段階(行動)アセスメント・・・発表とまとめ	講義	
6・7	<ol style="list-style-type: none"> 8. 刺激のアセスメント、関連図、看護診断の考え方 9. 第 2 段階(刺激)アセスメント・関連図・看護診断の演習 	講義 演習(グループワーク)	
【課題 5】 刺激のアセスメント・関連図 提出			
8	10. 第 2 段階(刺激)アセスメント、関連図、看護診断 発表とまとめ	講義 演習	

回	授業内容	授業方法
9～11	11. 介入計画についての考え方 (刺激のコントロールという視点で) 12. 医療情報と看護情報 13. 看護における情報管理 1) 記録の目的と機能 2) 必要性和種類 3) 記録の活用と管理 14. 看護記録の構成要素 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 (1) 経時的叙述的記録 (2) POS 4) 看護サマリー 5) クリティカルパス 15. 介入計画の立案演習	講義 演習
12	16. 報告 1) 報告の意義・目的 2) 報告の種類 3) 報告の方法 4) 報告の留意点 17. 看護情報の記録・報告と共有 1) 記録と報告の演習	講義 演習
【課題6】 看護過程の展開 介入計画を立案し提出		
13	18. 介入計画、看護の評価・・・発表とまとめ 19. 全体のまとめ	講義 演習
14	20. 看護における学習支援 1) 学習にかかわる諸理論 (1) アンドラゴジー、ペタゴジー (2) 健康信念モデル (3) 社会的認知理論動機付け (4) コンプライアンスと協働 (5) 自己効力感 (6) ストレスとコーピング 2) 対象者に合わせた目標設定 3) 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫 (1) 視聴覚教材 (2) コンピューター (3) シミュレーションモデル・標本・実物 (4) 印刷物	講義
15	21. 個人を対象とした学習支援の特性と適用 22. 集団を対象とした学習支援の特性と適用 1) グループダイナミクス 23. 演習 介入計画、指導計画立案、ロールプレイ	講義 演習

授業の進め方

看護過程展開技術は、看護過程の概要を講義で学習した後、肺炎患者の事例を用いてペーパーシミュレーションを行う。その際、解剖生理、病態生理で学習した内容を想起させながら、肺炎の治療を受ける患者の看護について教授する。事例展開に関しては、グループで意見を交換しながら事例を展開し、各自でまとめたレポートを基に学習の共有をはかる。看護過程展開は、初学者であるため、段階毎にまとめの時間をとって考え方を深めていく。

学習支援技術と記録と報告は、講義を中心に一部演習を取り入れながら進める。教育指導の実際には学生がイメージしやすいように、学生を対象に行う集団指導についての指導計画を提示し説明を行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器(医学書院)
3. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院)
4. ザ・ロイ適応看護モデル第2版(医学書院)
5. 看護過程に沿った対症看護 第4版 病態生理と看護のポイント(学研)
6. 看護診断ハンドブック 第11版 リンダ・J・カルペニート(医学書院)
7. 関連図の書き方をマスターしよう (サイオ出版)
8. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版

評価方法

筆記試験・レポート・授業の参加状況を総合して評価する。

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期
科目名 (単元名)	日常生活援助技術 I	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①大西 洋世 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 21 年) ②田尻 朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 13 年)		
<p><科目目標></p> <p>人々の健康と生活を理解し、患者を取り巻く生活環境を整えるための技術を身につける。活動と休息の意義と日常生活を整えるための技術を身につける。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 活動と運動の意義 2. 活動と運動の援助の基礎知識 1) 活動・運動の生理学的メカニズム 2) 活動と運動に影響する要因 3) 活動・運動のアセスメント 4) 活動と運動を促す援助	講義	①
2・3	3. 活動と運動を促す援助の基礎知識 1) よい姿勢 2) ボディメカニクスの基本原理 3) 体位保持(ポジショニング)の基礎知識 4) 体位変換の基礎知識 5) 床上運動 6) 移動(歩行介助)の基礎知識 7) 移乗・移送(車椅子、ストレッチャー)の基礎知識	講義	①
4	4. 活動と運動を促す援助の実際 1) 体位保持(座位保持、起立動作の援助) 2) 体位変換 3) 移動(歩行介助) 4) 移乗(車椅子・ストレッチャー) 5) 移送(車椅子・ストレッチャー)	演習	①
5	5. 睡眠と休息の援助 1) 休息と睡眠の意義 2) 休息と睡眠に影響する要因 3) 休息と睡眠のアセスメント 4) 休息と睡眠を促す援助 5) 療養生活におけるレクリエーション	講義	①
【課題 1】「わたしが考える生活環境を整えるということ」についてレポートし提出する。			
6	6. 環境の意義 1) 療養生活の環境 7. 環境のアセスメントと環境を整える技術 1) 患者の生活環境 2) 病室内環境の構成因子と調整 3) 療養生活の安全確保	講義	②
7	8. 療養環境の調整と整備 1) 照度、振動、音の測定(校内環境における調査、測定)	講義 演習	②
【課題 2】第 7 回終了後、「校内環境を測定して学習したこと」について文献を活用してレポートし提出する。			
8	2) 療養環境の安全確保の実際(演習) 3) 病床の整備 (1) ベッドメイキングの必要物品、方法	講義 演習	②
【課題 3】第 8 回終了後、「療養環境の安全確保の演習を通しての学び」について文献を活用してレポートし提出する。			
9・10	9. ベッドメイキングの実際 1) ベッドメイキング	演習	②
11・12	2) 臥床患者のシーツ交換	演習	②
【課題 4】第 12 回が終了後、「臥床患者のシーツ交換について」看護師・患者を体験して、気づいたこと等、文献を活用してレポートし提出する。			

回	授業内容	授業方法	担当講師
13	10. 苦痛の緩和・安楽確保の援助 1) 安楽の意義 (1) 体温管理・保温の援助 (2) 電法の基礎知識 i. 電法の意義 ii. 電法の種類と目的 (3) 身体ケアを通じてもたらされる安楽 2) 援助の基礎知識	講義	①
14	11. 電法の援助の実際 1) 電法(冷電法・温電法)	演習	①

授業の進め方

講義・演習を取り入れて授業を進めていく。日常生活リズムにおける活動と運動、睡眠と休息について、人体の構造と機能、生態から考える。生活環境について、物理的環境因子の理解では、様々な機器で測定しながら理解し、見学実習で測定できるように教授する。療養環境の安全確保の演習では、実際の療養環境の場面を通して、療養環境に潜む危険要因および安全な療養環境のための整備について理解する。ベッドメイキング、臥床患者のシーツ交換の演習では、活動と休息で学ぶボディメカニクスや体位変換の技術を活用して実施する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)①②
2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術(メディックメディア)①②
3. 看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ(日本看護協会出版会)①

評価方法

筆記試験、技術確認、課題レポート、授業参加状況により評価する。

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期																																	
科目名 (単元名)	日常生活援助技術Ⅱ (身体の清潔・衣生活)	単位数 (時間数)	2 単位(60 時間) うち 28 時間																																	
講師 (所属・職位等・実務経験)	田尻 朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 13 年)																																			
<p><科目目標> 人々の健康と生活を理解し、患者を取り巻く生活環境を整えるための技術を身につける。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">【事前課題 1】※課題の時期等は開講時期に指示する。 「皮膚・粘膜・毛髪」の構造と機能」「洗剤の作用」について</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. 清潔の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 湯の作用と洗剤の作用と種類 4. 清潔に影響する要因</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5. 清潔のアセスメント 6. 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 1) 様々な清潔援助の種類と方法 2) 患者の自立度に応じた援助 7. 入浴シャワー浴の意義と実際</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>8. 衣生活の意義 9. 衣生活に影響する要因 10. 衣生活のアセスメント 1) 衣服の選択と条件 2) 患者の自立度に応じた援助</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4・5</td> <td>11. 衣服の交換 1) 浴衣の交換 2) パジャマの交換</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>6・7</td> <td>12. 被頭髪部の清潔 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習) (1) ケリーパッドを使用した臥床患者の洗髪 (2) 洗髪車・洗髪台を用いた洗髪</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>8～11</td> <td>13. 臥床患者の全身清拭 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>14. 足浴・手浴(部分浴) 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(足浴演習)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>15. 陰部洗浄 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>16. 整容 1) 援助の基礎知識(洗面、眼・鼻・耳の清潔、爪切り、髭剃り、口腔ケア) 2) 援助の実際(演習) (1) 口腔ケア (2) 顔面清拭</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	【事前課題 1】※課題の時期等は開講時期に指示する。 「皮膚・粘膜・毛髪」の構造と機能」「洗剤の作用」について			1	1. 清潔の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 湯の作用と洗剤の作用と種類 4. 清潔に影響する要因	講義	2	5. 清潔のアセスメント 6. 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 1) 様々な清潔援助の種類と方法 2) 患者の自立度に応じた援助 7. 入浴シャワー浴の意義と実際	講義 演習	3	8. 衣生活の意義 9. 衣生活に影響する要因 10. 衣生活のアセスメント 1) 衣服の選択と条件 2) 患者の自立度に応じた援助	講義 演習	4・5	11. 衣服の交換 1) 浴衣の交換 2) パジャマの交換	講義 演習	6・7	12. 被頭髪部の清潔 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習) (1) ケリーパッドを使用した臥床患者の洗髪 (2) 洗髪車・洗髪台を用いた洗髪	講義 演習	8～11	13. 臥床患者の全身清拭 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)	講義 演習	12	14. 足浴・手浴(部分浴) 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(足浴演習)	講義 演習	13	15. 陰部洗浄 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)	講義 演習	14	16. 整容 1) 援助の基礎知識(洗面、眼・鼻・耳の清潔、爪切り、髭剃り、口腔ケア) 2) 援助の実際(演習) (1) 口腔ケア (2) 顔面清拭	講義 演習
回	授業内容	授業方法																																		
【事前課題 1】※課題の時期等は開講時期に指示する。 「皮膚・粘膜・毛髪」の構造と機能」「洗剤の作用」について																																				
1	1. 清潔の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 湯の作用と洗剤の作用と種類 4. 清潔に影響する要因	講義																																		
2	5. 清潔のアセスメント 6. 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 1) 様々な清潔援助の種類と方法 2) 患者の自立度に応じた援助 7. 入浴シャワー浴の意義と実際	講義 演習																																		
3	8. 衣生活の意義 9. 衣生活に影響する要因 10. 衣生活のアセスメント 1) 衣服の選択と条件 2) 患者の自立度に応じた援助	講義 演習																																		
4・5	11. 衣服の交換 1) 浴衣の交換 2) パジャマの交換	講義 演習																																		
6・7	12. 被頭髪部の清潔 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習) (1) ケリーパッドを使用した臥床患者の洗髪 (2) 洗髪車・洗髪台を用いた洗髪	講義 演習																																		
8～11	13. 臥床患者の全身清拭 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)	講義 演習																																		
12	14. 足浴・手浴(部分浴) 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(足浴演習)	講義 演習																																		
13	15. 陰部洗浄 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)	講義 演習																																		
14	16. 整容 1) 援助の基礎知識(洗面、眼・鼻・耳の清潔、爪切り、髭剃り、口腔ケア) 2) 援助の実際(演習) (1) 口腔ケア (2) 顔面清拭	講義 演習																																		
<p>授業の進め方 事前学習と第 1 回の講義で、皮膚・粘膜の構造と機能、洗剤の作用について学習し、身体の清潔と衣生活の意義とその方法について学習する。清潔ケアの方法と患者の状態に応じた援助について学習したうえで、具体的な援助について講義・演習で習得していく。演習時は、始めに援助の目的・根拠・方法・留意点を講義・デモンストレーションで教授後、グループで演習を行う。</p>																																				
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第 1 版(メディックメディア) 																																				
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験および課題のレポート内容 2. 講義、グループワーク、演習受講態度をもって評価とする。 3. 技術確認 																																				

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1年後期																					
科目名 (単元名)	日常生活援助技術Ⅱ (食事・栄養の援助技術)	単位数 (時間数)	2単位(60時間)うち12時間																					
講師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師24年) 後藤 夏咲 (別府医療センター・看護師4年) 瀬々 智美 (別府医療センター・看護師8年)																							
<p><科目目標> 人々の健康と生活を理解し、身体の清潔・食事・排泄などの生活を整えるための技術を身につける。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 食事と栄養の意義 2. 食欲と食行動 3. 食事と栄養に関する基礎 1) 人間に必要な栄養素 2) 食事摂取基準 4. 栄養状態の評価</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントと評価 6. 医療施設で提供される食事の種類と形態 7. 食事摂取の介助 1) 援助の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>7. 食事介助の援助 食事摂取の自立困難な人への援助 2) 援助の実際</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8. 摂食・嚥下訓練 嚥下障害のある人への援助 1) 援助の基礎知識 (1) 直接訓練 (2) 間接訓練 2) 援助の実際 (1) 実施前の評価 (2) 嚥下検査</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>9. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管(経腸)栄養法 2) 経静脈栄養法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>10. 経管栄養法 1) 胃管挿入(経鼻栄養法)の方法 2) 栄養物の注入 3) 滴下速度の調整</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	授業方法	1	1. 食事と栄養の意義 2. 食欲と食行動 3. 食事と栄養に関する基礎 1) 人間に必要な栄養素 2) 食事摂取基準 4. 栄養状態の評価	講義	2	5. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントと評価 6. 医療施設で提供される食事の種類と形態 7. 食事摂取の介助 1) 援助の基礎知識	講義	3	7. 食事介助の援助 食事摂取の自立困難な人への援助 2) 援助の実際	演習	4	8. 摂食・嚥下訓練 嚥下障害のある人への援助 1) 援助の基礎知識 (1) 直接訓練 (2) 間接訓練 2) 援助の実際 (1) 実施前の評価 (2) 嚥下検査	講義	5	9. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管(経腸)栄養法 2) 経静脈栄養法	講義	6	10. 経管栄養法 1) 胃管挿入(経鼻栄養法)の方法 2) 栄養物の注入 3) 滴下速度の調整	演習
回	内容	授業方法																						
1	1. 食事と栄養の意義 2. 食欲と食行動 3. 食事と栄養に関する基礎 1) 人間に必要な栄養素 2) 食事摂取基準 4. 栄養状態の評価	講義																						
2	5. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントと評価 6. 医療施設で提供される食事の種類と形態 7. 食事摂取の介助 1) 援助の基礎知識	講義																						
3	7. 食事介助の援助 食事摂取の自立困難な人への援助 2) 援助の実際	演習																						
4	8. 摂食・嚥下訓練 嚥下障害のある人への援助 1) 援助の基礎知識 (1) 直接訓練 (2) 間接訓練 2) 援助の実際 (1) 実施前の評価 (2) 嚥下検査	講義																						
5	9. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管(経腸)栄養法 2) 経静脈栄養法	講義																						
6	10. 経管栄養法 1) 胃管挿入(経鼻栄養法)の方法 2) 栄養物の注入 3) 滴下速度の調整	演習																						
<p>授業の進め方 講義形式とグループワーク、ビデオ学習、演習(校内実習)、模擬練習(学生同士)を行う。</p>																								
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術(メディックメディア) 3. 看護がみえる vol.2 臨床看護技術(メディックメディア) 																								
<p>評価方法 筆記試験および講義、演習への参加状況で評価する。</p>																								

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年後期
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術Ⅱ (排泄の援助技術)	単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 20 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中釜 昌代 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 22 年) 脇 葵 (別府医療センター・看護師 4 年) 児玉 千穂 (別府医療センター・看護師 11 年)		
<科目目標> 人々の健康と生活を理解し、身体の清潔・食事・排泄などの生活を整えるための技術を身につける。			
<内容>			
回	内容	授業方法	
1～4	1. 排泄の意義 2. 排泄に影響する要因 3. 排泄のアセスメント 4. 排泄の援助 1) 援助を受ける対象の心理 2) 排泄援助の原則と留意点 (1) 床上での排泄の援助 (2) 尿失禁・便失禁がある患者のオムツを用いた援助 (3) ポータブルトイレ・トイレでの援助 (4) 自然排尿・排便を促す援助	講義	
5	5. 排泄援助の実際 1) 便器・尿器の種類と援助の実施	演習	
6	6. 自然な排泄が困難な人への援助 1) 浣腸・摘便の目的と種類 (1) グリセリン浣腸 (2) 摘便	講義	
7	2) グリセリン浣腸の実施と援助	演習	
8	3) 導尿の目的と種類 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿 4) 膀胱留置カテーテルの管理の方法と留意点	講義	
9・10	5) 一時的導尿の実施と援助	演習	
授業の進め方 講義、グループワーク、DVDなど視聴覚教材、デモンストレーション、模擬練習(学生同士)体験学習やグループワークを取り入れながら理解を深めていく。 援助を受ける対象の心理をふまえ、看護師としての必要な態度を身につける。また、身体侵襲を伴う可能性のある援助(浣腸・一時的導尿)については、医療安全の視点からも教授する。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版(メディックメディア) 3. 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)			
評価方法 1. 筆記試験 2. 技術確認			

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2年前期～後期																																										
科目名 (単元名)	看護研究	単位数 (時間数)	1単位(30時間)																																										
講師 (所属・職位等・実務経験)	野中 智恵 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師 16年目)																																												
<p><科目目標></p> <p>看護における研究の意義、看護研究の方法の基礎を理解し、文献の収集や文献の読み方について演習をとおして理解を深める。事例研究をとおして研究のプロセスの理解と科学的思考を育成する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 看護における研究の意義 1) 研究とは 2) 看護における研究の意義 3) 看護研究の動向</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 看護における研究疑問 1) 研究疑問とは 2) 研究テーマを明確にするプロセス</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 看護研究における倫理 1) 研究を行う上で配慮すべき倫理的問題 2) 看護研究における倫理指針 3) 倫理的問題の対応</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. 研究デザイン 1) 研究デザインとは 2) 量的研究と質的研究の特徴 3) 量的研究と質的研究のプロセス</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4) 事例研究の方法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5. 文献検索と文献検討 1) 文献とは 2) 文献検索および文献検討の必要性 3) 文献検索の方法 4) 一次文献と二次文献</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5) 文献検索の実際</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6. 看護研究のクリティーク 1) クリティークとは 2) クリティークの意義 3) クリティークの方法 4) クリティークの実際</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>7. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の作成意義 2) 研究計画書の構成要素</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>3) 研究計画書作成の実際</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11・12</td> <td>8. 事例研究の実際</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13・14</td> <td>9. 事例研究の発表</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>10. 事例研究の総評</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 看護における研究の意義 1) 研究とは 2) 看護における研究の意義 3) 看護研究の動向	講義	2	2. 看護における研究疑問 1) 研究疑問とは 2) 研究テーマを明確にするプロセス	講義・演習	3	3. 看護研究における倫理 1) 研究を行う上で配慮すべき倫理的問題 2) 看護研究における倫理指針 3) 倫理的問題の対応	講義	4	4. 研究デザイン 1) 研究デザインとは 2) 量的研究と質的研究の特徴 3) 量的研究と質的研究のプロセス	講義・演習	5	4) 事例研究の方法	講義	6	5. 文献検索と文献検討 1) 文献とは 2) 文献検索および文献検討の必要性 3) 文献検索の方法 4) 一次文献と二次文献	講義	7	5) 文献検索の実際	講義・演習	8	6. 看護研究のクリティーク 1) クリティークとは 2) クリティークの意義 3) クリティークの方法 4) クリティークの実際	講義・演習	9	7. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の作成意義 2) 研究計画書の構成要素	講義・演習	10	3) 研究計画書作成の実際	演習	11・12	8. 事例研究の実際	演習	13・14	9. 事例研究の発表	演習	15	10. 事例研究の総評	演習
回	授業内容	授業方法																																											
1	1. 看護における研究の意義 1) 研究とは 2) 看護における研究の意義 3) 看護研究の動向	講義																																											
2	2. 看護における研究疑問 1) 研究疑問とは 2) 研究テーマを明確にするプロセス	講義・演習																																											
3	3. 看護研究における倫理 1) 研究を行う上で配慮すべき倫理的問題 2) 看護研究における倫理指針 3) 倫理的問題の対応	講義																																											
4	4. 研究デザイン 1) 研究デザインとは 2) 量的研究と質的研究の特徴 3) 量的研究と質的研究のプロセス	講義・演習																																											
5	4) 事例研究の方法	講義																																											
6	5. 文献検索と文献検討 1) 文献とは 2) 文献検索および文献検討の必要性 3) 文献検索の方法 4) 一次文献と二次文献	講義																																											
7	5) 文献検索の実際	講義・演習																																											
8	6. 看護研究のクリティーク 1) クリティークとは 2) クリティークの意義 3) クリティークの方法 4) クリティークの実際	講義・演習																																											
9	7. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の作成意義 2) 研究計画書の構成要素	講義・演習																																											
10	3) 研究計画書作成の実際	演習																																											
11・12	8. 事例研究の実際	演習																																											
13・14	9. 事例研究の発表	演習																																											
15	10. 事例研究の総評	演習																																											
<p>授業の進め方</p> <p>看護における研究の意義や方法についてはテキストや文献をもとに説明を行う。文献検索はWeb版医学中央雑誌を用いて、実際に行い方法を理解する。文献検討については、クリティークを行い批判的思考に基づく研究の質や信頼度を検討するプロセスを理解する。基礎看護学実習で担当した患者への看護実践を事例研究としてまとめ、発表会を行う。11回目、12回目は担当教員による指導を行う。</p>																																													
<p>テキスト</p> <p>1. 黒田裕子著：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版，医学書院，2017 2. 松本 孚，森田 夏実編：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方，照林社，2014</p>																																													
<p>評価方法</p> <p>1. クリティーク課題， 2. 研究計画書， 3. 事例研究の論文によって評価する。 評価の視点の詳細については、初回講義時に説明する。</p>																																													

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期															
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (診察と看護) (検査と看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 18 時間															
講 師 (所属・職位等・実務経験)	高木 雅弘 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 29 年) 作田 咲恵 (別府医療センター・看護師 15 年) 平山 治美 (別府医療センター・看護師 13 年) 濱岡 萌 (別府医療センター・看護師 3 年)																	
<p><科目目標> 診療援助時に患者が安全・安楽に診察・検査・治療・処置をうけるために必要な知識・援助の技術を身につける。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>1. 診察と看護 1) 診察の目的と方法 2) 診察を受ける人の心理 3) 診察時の看護師の役割 4) 診察時の援助方法と留意点</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3～5</td> <td>1. 検査と看護 1) 検査の意義と目的 2) 検査時の看護師の役割 3) 検査時の援助方法と留意点 (1) 生体検査(X線、MR I、CT、血管造影、心電図、内視鏡、超音波、脳波、呼吸機能検査、など) (2) 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) (3) 検体(尿、便、痰、血液など)の採取方法と取り扱い</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>【課題 1】血液検査の実際に入る前までに以下の課題を行うこと 「安全を守るための技術で学習した内容の復習」 1. 感染防止の技術：感染予防の原則、スタンダードプリコーション 2. 感染予防の種類と方法：感染経路別予防策、消毒法と滅菌法 3. 感染予防の実際：無菌操作、個人防護用具の着脱、感染廃棄物の取り扱い</p> <p>【課題 2】採血技術演習に入る前までに以下の課題を行うこと 1. 上腕にある静脈及び神経の走行</p> </td> </tr> <tr> <td>6～9</td> <td>2. 血液検査の実際 1) 注射器および注射針の種類と選択、注射器の取り扱い、注射器を用いた採血方法(デモンストレーション) 2) 真空管採血(デモンストレーション、演習)</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1・2	1. 診察と看護 1) 診察の目的と方法 2) 診察を受ける人の心理 3) 診察時の看護師の役割 4) 診察時の援助方法と留意点	講義	3～5	1. 検査と看護 1) 検査の意義と目的 2) 検査時の看護師の役割 3) 検査時の援助方法と留意点 (1) 生体検査(X線、MR I、CT、血管造影、心電図、内視鏡、超音波、脳波、呼吸機能検査、など) (2) 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) (3) 検体(尿、便、痰、血液など)の採取方法と取り扱い	講義 演習	<p>【課題 1】血液検査の実際に入る前までに以下の課題を行うこと 「安全を守るための技術で学習した内容の復習」 1. 感染防止の技術：感染予防の原則、スタンダードプリコーション 2. 感染予防の種類と方法：感染経路別予防策、消毒法と滅菌法 3. 感染予防の実際：無菌操作、個人防護用具の着脱、感染廃棄物の取り扱い</p> <p>【課題 2】採血技術演習に入る前までに以下の課題を行うこと 1. 上腕にある静脈及び神経の走行</p>			6～9	2. 血液検査の実際 1) 注射器および注射針の種類と選択、注射器の取り扱い、注射器を用いた採血方法(デモンストレーション) 2) 真空管採血(デモンストレーション、演習)	講義 演習
回	授業内容	授業方法																
1・2	1. 診察と看護 1) 診察の目的と方法 2) 診察を受ける人の心理 3) 診察時の看護師の役割 4) 診察時の援助方法と留意点	講義																
3～5	1. 検査と看護 1) 検査の意義と目的 2) 検査時の看護師の役割 3) 検査時の援助方法と留意点 (1) 生体検査(X線、MR I、CT、血管造影、心電図、内視鏡、超音波、脳波、呼吸機能検査、など) (2) 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) (3) 検体(尿、便、痰、血液など)の採取方法と取り扱い	講義 演習																
<p>【課題 1】血液検査の実際に入る前までに以下の課題を行うこと 「安全を守るための技術で学習した内容の復習」 1. 感染防止の技術：感染予防の原則、スタンダードプリコーション 2. 感染予防の種類と方法：感染経路別予防策、消毒法と滅菌法 3. 感染予防の実際：無菌操作、個人防護用具の着脱、感染廃棄物の取り扱い</p> <p>【課題 2】採血技術演習に入る前までに以下の課題を行うこと 1. 上腕にある静脈及び神経の走行</p>																		
6～9	2. 血液検査の実際 1) 注射器および注射針の種類と選択、注射器の取り扱い、注射器を用いた採血方法(デモンストレーション) 2) 真空管採血(デモンストレーション、演習)	講義 演習																
<p>授業の進め方</p> <p>1. 講義 患者が安全・安楽に診察を受けるために必要な援助技術を学習する。診察の場面設定を行い、ロールプレイにて援助方法を考えていく。診療時援助技術に関する法律での規制等に関しては、関係法規及び臨床看護総論にておさえる。</p> <p>2. 演習 1) 尿検査は春季健康診断を通して実践を行う。 2) 血液検査の実際は、モデル人形、シミュレーターを使用しての演習を行う。</p>																		
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 2. 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)</p>																		
<p>評価方法</p> <p>1. 筆記試験 2. 技術確認</p>																		

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2年前期～後期																																	
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (治療に伴う看護)	単 位 数 (時間数)	2単位(60時間)うち34時間																																	
講 師 (所属・職位等・実務経験)	高木 雅弘 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 29年) 岡村 由佳 (別府医療センター・看護師 12年) 小野原 雪月花 (別府医療センター・看護師 6年) 塩田 ちなみ (別府医療センター・看護師 10年)																																			
<p><科目目標></p> <p>診療援助時に患者が安全・安楽に診察・検査・治療・処置をうけるために必要な知識・援助の技術を身につける。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 酸素吸入療法を必要とする患者の看護 1) 酸素吸入療法の目的と対象 2) 酸素吸入療法の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2・3</td> <td>2. 酸素吸入療法の看護 1) 酸素流量計、加湿器の構造 2) 中央配管での酸素流量計の接続方法 3) 鼻カニューレ、フェイスマスク、リザーバーマスクの物品と装着方法 4) 酸素ボンベの取扱法、酸素の残量の見方(計算法) 5) 酸素飽和度の接続方法と酸素飽和度の値が示す意味</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題1】前腕～上腕部、臀部、大腿部の筋肉、神経、血管の解剖図と名称について調べておく。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3. 薬物療法に関する基礎知識 1) 薬物療法の意義・目的 2) 薬物の体内動態 3) 与薬における看護師の役割 4) 薬の管理 薬剤の種類と取り扱い方法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>4. 与薬種類別の具体的方法と留意事項 1) 経口与薬法 2) 口腔内与薬法 3) 直腸内与薬法 4) 皮膚用製剤の塗布、貼付 5) 点眼・点入法、点鼻法 6) 吸入(噴霧器、超音波ネブライザー、コンプレッサー式ネブライザー)</td> <td>講義 DVD</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5. 与薬の実際 1) 経口与薬法</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8・9</td> <td>6. 与薬の実際 1) 注射法の基本知識と実際 (1)各注射の目的 (2)各注射の部位 (3)各注射の方法と留意点 (4)注射器の取り扱い</td> <td>講義 DVD 演習</td> </tr> <tr> <td>10～13</td> <td>7. 与薬の実際 1) 筋肉内注射の実際 (1)筋肉内注射の方法と留意点</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>14～16</td> <td>8. 与薬の実際 1) 静脈内注射と点滴静脈内注射の実際(輸液療法) (1)静脈内注射の方法と留意点 (2)点滴静脈内注射の方法と留意点と副作用の観察</td> <td>講義 DVD 演習</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>9. 与薬の実際 1) 輸血療法の看護 (1)輸血療法の適用と種類 (2)輸血療法の方法と留意点と副作用の観察</td> <td>講義 DVD</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 酸素吸入療法を必要とする患者の看護 1) 酸素吸入療法の目的と対象 2) 酸素吸入療法の看護	講義	2・3	2. 酸素吸入療法の看護 1) 酸素流量計、加湿器の構造 2) 中央配管での酸素流量計の接続方法 3) 鼻カニューレ、フェイスマスク、リザーバーマスクの物品と装着方法 4) 酸素ボンベの取扱法、酸素の残量の見方(計算法) 5) 酸素飽和度の接続方法と酸素飽和度の値が示す意味	講義 演習	【課題1】前腕～上腕部、臀部、大腿部の筋肉、神経、血管の解剖図と名称について調べておく。			4	3. 薬物療法に関する基礎知識 1) 薬物療法の意義・目的 2) 薬物の体内動態 3) 与薬における看護師の役割 4) 薬の管理 薬剤の種類と取り扱い方法	講義	5・6	4. 与薬種類別の具体的方法と留意事項 1) 経口与薬法 2) 口腔内与薬法 3) 直腸内与薬法 4) 皮膚用製剤の塗布、貼付 5) 点眼・点入法、点鼻法 6) 吸入(噴霧器、超音波ネブライザー、コンプレッサー式ネブライザー)	講義 DVD	7	5. 与薬の実際 1) 経口与薬法	演習	8・9	6. 与薬の実際 1) 注射法の基本知識と実際 (1)各注射の目的 (2)各注射の部位 (3)各注射の方法と留意点 (4)注射器の取り扱い	講義 DVD 演習	10～13	7. 与薬の実際 1) 筋肉内注射の実際 (1)筋肉内注射の方法と留意点	演習	14～16	8. 与薬の実際 1) 静脈内注射と点滴静脈内注射の実際(輸液療法) (1)静脈内注射の方法と留意点 (2)点滴静脈内注射の方法と留意点と副作用の観察	講義 DVD 演習	17	9. 与薬の実際 1) 輸血療法の看護 (1)輸血療法の適用と種類 (2)輸血療法の方法と留意点と副作用の観察	講義 DVD
回	授業内容	授業方法																																		
1	1. 酸素吸入療法を必要とする患者の看護 1) 酸素吸入療法の目的と対象 2) 酸素吸入療法の看護	講義																																		
2・3	2. 酸素吸入療法の看護 1) 酸素流量計、加湿器の構造 2) 中央配管での酸素流量計の接続方法 3) 鼻カニューレ、フェイスマスク、リザーバーマスクの物品と装着方法 4) 酸素ボンベの取扱法、酸素の残量の見方(計算法) 5) 酸素飽和度の接続方法と酸素飽和度の値が示す意味	講義 演習																																		
【課題1】前腕～上腕部、臀部、大腿部の筋肉、神経、血管の解剖図と名称について調べておく。																																				
4	3. 薬物療法に関する基礎知識 1) 薬物療法の意義・目的 2) 薬物の体内動態 3) 与薬における看護師の役割 4) 薬の管理 薬剤の種類と取り扱い方法	講義																																		
5・6	4. 与薬種類別の具体的方法と留意事項 1) 経口与薬法 2) 口腔内与薬法 3) 直腸内与薬法 4) 皮膚用製剤の塗布、貼付 5) 点眼・点入法、点鼻法 6) 吸入(噴霧器、超音波ネブライザー、コンプレッサー式ネブライザー)	講義 DVD																																		
7	5. 与薬の実際 1) 経口与薬法	演習																																		
8・9	6. 与薬の実際 1) 注射法の基本知識と実際 (1)各注射の目的 (2)各注射の部位 (3)各注射の方法と留意点 (4)注射器の取り扱い	講義 DVD 演習																																		
10～13	7. 与薬の実際 1) 筋肉内注射の実際 (1)筋肉内注射の方法と留意点	演習																																		
14～16	8. 与薬の実際 1) 静脈内注射と点滴静脈内注射の実際(輸液療法) (1)静脈内注射の方法と留意点 (2)点滴静脈内注射の方法と留意点と副作用の観察	講義 DVD 演習																																		
17	9. 与薬の実際 1) 輸血療法の看護 (1)輸血療法の適用と種類 (2)輸血療法の方法と留意点と副作用の観察	講義 DVD																																		

授業の進め方

解剖生理学、薬理学の知識を活かして、薬物療法、輸液療法、輸血療法の目的・方法を講義にて学習する。そのため、提示された解剖図の予習を行い授業に臨む。校内実習では、モデル人形、シミュレーターを使用して、与薬の実際を学習する。酸素吸入療法では酸素吸入や酸素ポンベの取り扱いの実際について演習を行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
2. 看護技術がみえる vol.1 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)
3. 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)
4. 系統看護学講座 専門基礎 薬理学(医学書院)

評価方法

1. 筆記試験
2. 技術確認

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期																					
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (処置に伴う看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 8 時間																					
講 師 (所属・職位等・実務経験)	野中 智恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 16 年)																							
<p><科目目標> 診療援助時に患者が安全・安楽に診察・検査・治療・処置をうけるために必要な知識・援助の技術を身につける。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3"> 【事前課題】 穿刺の実際に入る前までに以下の課題を行う。 腰椎 (脊髄腔)・胸腔・腹腔・腸骨の解剖生理について学習する。 </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> 1. 穿刺 1) 穿刺の目的 検体検査(髄液、胸水、腹水、骨髄液) 2) 穿刺の種類 (1) 腰椎穿刺 (2) 胸腔穿刺 (3) 腹腔穿刺 (4) 骨髄穿刺 3) 各種穿刺方法 4) 穿刺時の看護師の役割 </td> <td>講義 DVD</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 2. 包帯法 1) 包帯法の目的 2) 包帯の種類 3) 援助の実際 3. 止血法 1) 止血法の目的 2) 止血法の種類 3) 援助の実際 </td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 【課題 2】 吸引に必要な解剖生理学 (口腔・鼻腔・咽頭・肺) </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> 4. 吸引 1) 吸引の目的 2) 吸引の種類(一時的吸引) 3) 吸引の方法と留意事項 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> 5. 一時的吸引の実際 1) 一時的吸引 (鼻腔・口腔内の一時的吸引) </td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	【事前課題】 穿刺の実際に入る前までに以下の課題を行う。 腰椎 (脊髄腔)・胸腔・腹腔・腸骨の解剖生理について学習する。			1	1. 穿刺 1) 穿刺の目的 検体検査(髄液、胸水、腹水、骨髄液) 2) 穿刺の種類 (1) 腰椎穿刺 (2) 胸腔穿刺 (3) 腹腔穿刺 (4) 骨髄穿刺 3) 各種穿刺方法 4) 穿刺時の看護師の役割	講義 DVD	2	2. 包帯法 1) 包帯法の目的 2) 包帯の種類 3) 援助の実際 3. 止血法 1) 止血法の目的 2) 止血法の種類 3) 援助の実際	講義 演習	【課題 2】 吸引に必要な解剖生理学 (口腔・鼻腔・咽頭・肺)			3	4. 吸引 1) 吸引の目的 2) 吸引の種類(一時的吸引) 3) 吸引の方法と留意事項	講義	4	5. 一時的吸引の実際 1) 一時的吸引 (鼻腔・口腔内の一時的吸引)	演習
回	授業内容	授業方法																						
【事前課題】 穿刺の実際に入る前までに以下の課題を行う。 腰椎 (脊髄腔)・胸腔・腹腔・腸骨の解剖生理について学習する。																								
1	1. 穿刺 1) 穿刺の目的 検体検査(髄液、胸水、腹水、骨髄液) 2) 穿刺の種類 (1) 腰椎穿刺 (2) 胸腔穿刺 (3) 腹腔穿刺 (4) 骨髄穿刺 3) 各種穿刺方法 4) 穿刺時の看護師の役割	講義 DVD																						
2	2. 包帯法 1) 包帯法の目的 2) 包帯の種類 3) 援助の実際 3. 止血法 1) 止血法の目的 2) 止血法の種類 3) 援助の実際	講義 演習																						
【課題 2】 吸引に必要な解剖生理学 (口腔・鼻腔・咽頭・肺)																								
3	4. 吸引 1) 吸引の目的 2) 吸引の種類(一時的吸引) 3) 吸引の方法と留意事項	講義																						
4	5. 一時的吸引の実際 1) 一時的吸引 (鼻腔・口腔内の一時的吸引)	演習																						
<p>授業の進め方</p> <p>医療の高度化、専門化に伴い確実な技術と知識を身につけ、患者が安全・安楽に処置を受けるために必要な援助技術を習得する。吸引に関して、鼻腔・口腔内の一時的吸引を教授し、気管内吸引と持続吸引は成人看護学で教授する。</p>																								
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院)</p> <p>2. 看護技術がみえる Vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)</p>																								
<p>評価方法</p> <p>1. 筆記試験</p> <p>2. 校内演習後のレポート</p>																								

領域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期
科目名 (单元名)	臨床看護総論	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①池ヶ谷 知美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 29 年) ②平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 15 年) ③吉村 幸永 (別府医療センター・がん化学療法看護認定看護師・看護師 25 年) ④木本 理美 (別府医療センター・がん放射線療法看護認定看護師・看護師 14 年) ⑤岩熊 秀樹 (別府医療センター・主任臨床工学技士)		
<科目目標> 健康障がいをもつ対象を理解し、状態に応じた看護を習得する。主要症状を示す患者の看護や主要な治療に応じた看護、ME 機器に関する内容を習得する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～ 5	1. 健康の段階の考え方 経過に基づく看護 1) 臨床看護総論を学ぶ目的 2) 経過別看護とは 3) 経過別看護の視点 4) 経過別看護の特性 2. 経過に基づく看護：急性期 1) 急性期とは 2) 急性疾患と急性治療の特性 3) 急性・重症患者と家族の特徴 4) 急性・重症患者の看護 5) 危機理論、ストレス・コーピング理論 3. 経過に基づく看護：回復期 1) 回復期とは 2) 回復期患者と家族の特徴 3) 障がいの理解 (ICF の概念を使って) 4) 回復期患者の看護 5) 自己効力感 6) 障がいの受容過程 4. 経過に基づく看護：慢性期 1) 慢性期とは 2) 慢性期患者と家族の特徴 3) 慢性疾患の特徴と看護 4) セルフケア、自己管理支援 5) 病みの軌跡、セルフケア理論 5. 経過に基づく看護：終末期 1) 終末期とは 2) 終末期患者と家族の特徴 3) 終末期にある患者・家族への看護 4) 死の受容過程、ケアリング 5) 脳死状態への対応 6. 経過に基づく看護：終末期 1) エンゼルケア 2) エンゼルメイク 3) 家族への配慮	講義	①
6～ 10	1. 症状別看護の考え方 2. 消化器の異常からくる症状と看護①：便秘 1) 便秘の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主要な検査・治療 3) 看護のポイント 3. 消化器の異常からくる症状と看護②：悪心・嘔吐 1) 悪心・嘔吐の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント 4. 体液異常からくる症状と看護：浮腫 1) 浮腫の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント (水分出納管理含む) 5. 呼吸の異常からくる症状と看護：呼吸困難 1) 呼吸困難の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント	講義 演習 (グループワーク)	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
6～10	6. 循環の異常からくる症状と看護：ショック 1) ショックの定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント 7. 痛みのある患者の看護 1) 痛みのメカニズム 2) 痛みに対する治療 3) 看護のポイント 8. 全体発表 まとめ	講義 演習 (グループワーク)	①
11	1. 治療法の多様化とインフォームドコンセント 1) 治療法の多様化 2) インフォームドコンセント 2. リハビリテーションと看護 1) リハビリテーションの特徴と看護 (1) 生活者としてのリハビリテーション (2) リハビリテーションの種類 (3) リハビリテーションにおける看護の役割	講義	②
12	3. 化学療法と看護 1) 化学療法を必要とする患者とは 2) 化学療法が患者に及ぼす影響 3) 化学療法を受ける患者の看護 4) 抗がん剤による医療従事者の被曝	講義	③
13	4. 放射線治療と看護 1) 放射線療法を必要とする患者とは 2) 放射線療法に伴う有害作用 3) 放射線療法を受ける患者の看護	講義	④
14・15	1. 医療機器使用の実際 1) ME機器とは (1) 医療機器の種類 i. 測定用ME機器 (心電図モニター) ii. 治療用ME機器 (人工呼吸器、低圧持続吸引器、輸液ポンプ) (2) 医療機器の進歩 2. ME機器取り扱い上の留意事項 3. ME機器使用時の取り扱い	講義 演習	⑤

授業の進め方

経過別看護は、各期の看護における対象の身体的・心理的・社会的特徴や看護について学ぶ。症状別看護は、症状のある患者の事例を通して学ぶ。グループごとに1事例を担当し、他者にわかりやすく説明する。特に症状のメカニズムについては関連図をもとに説明する。治療・処置別看護は、具体的な事例を取り入れながら、看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴や看護の要点について学ぶ。ME機器の原理と実際については輸液ポンプ、シリンジポンプの操作を実際に体験する。

テキスト

1. 専門分野 I 基礎看護学 臨床看護総論 基礎看護学4(医学書院)①②③④⑤
2. 臨床看護学叢書2 経過別看護(メヂカルフレンド社)①
3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研)①
4. 看護過程に沿った対症看護 第4版 病態生理と看護のポイント(学研)①
5. 系統看護学講座別巻 リハビリテーション看護(医学書院)②
6. 系統看護学講座別巻 臨床放射線医学(医学書院)④

評価方法

提示したレポート、筆記試験、講義・演習の参加状況により総合的に評価する。